

寒冷地形談話会通信 1983年度 第5号

11月a例会の報告(1983.11.26, 明大に2)

①小泉 武栄(学芸大): プラスカの氷河・周氷河地形

—— 第4回国際永久凍土会議に出席して ——

②清水 長正・沢口 晋一(明大・院): 北海道北見国武利岳の
氷河地形

(要旨)

① フェアバンクスの Permafrost 会議の際に催されたペンカ
ジ〜フェアバンクス付近の巡視報告がおこなわれた。

フェアバンクスの巨大なアイスウェッジ(8000y.B.P. 以前にさかん
に形成), ピンゴ, プラスカ山脈周辺のアイスウェッジカスト, モー
ン, パルス

策の状況に

ついでに紹

介が、スライ

ドを使ってお

こなされた。

プラスカの氷河

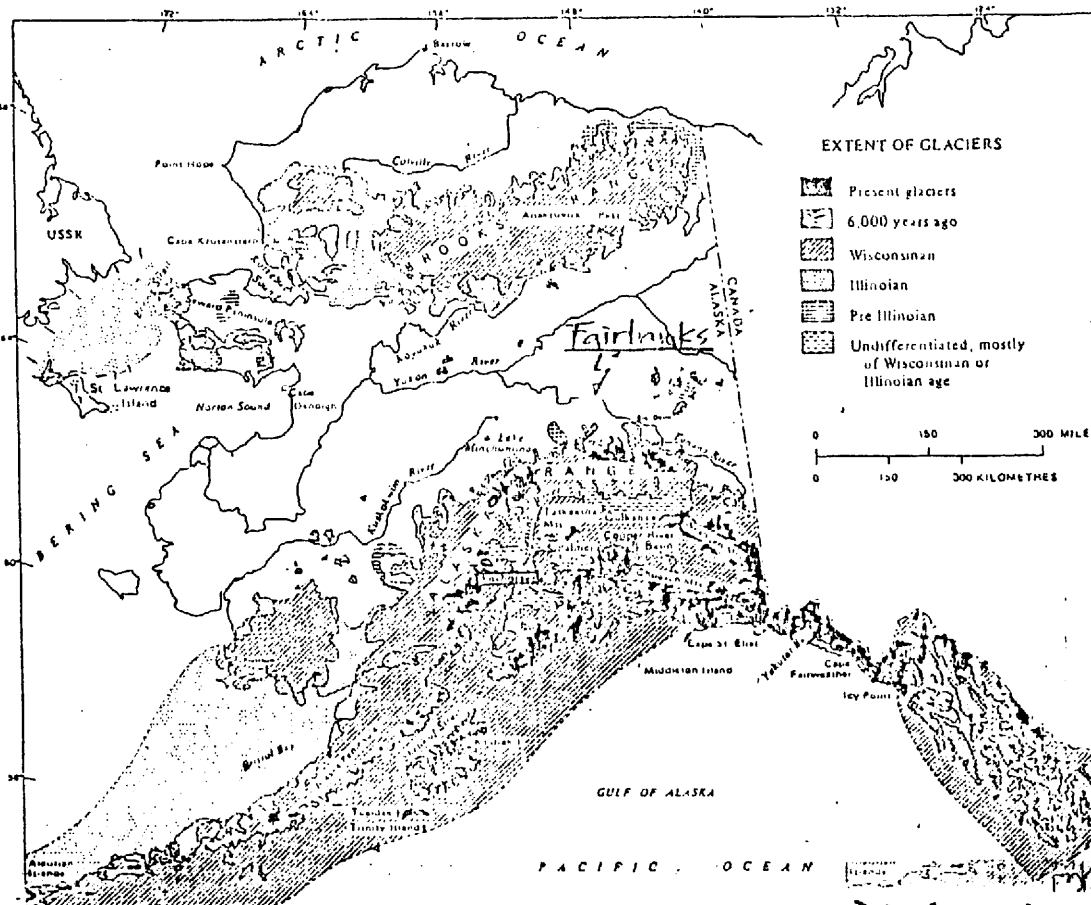
の分布は第

1図に示され

ているが、その

分布が拡大

しているゆえに



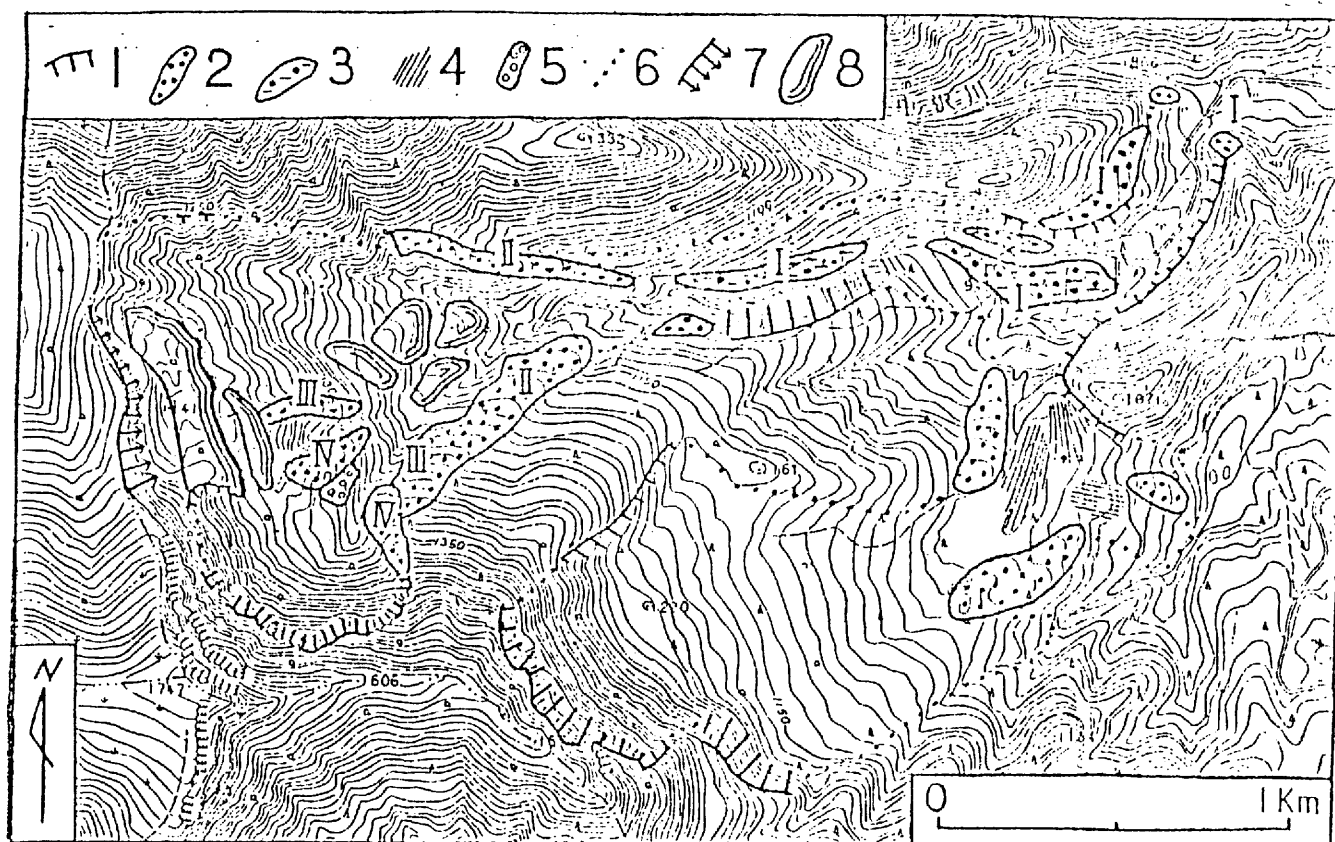
第1図 Extent of Quaternary glaciations in Alaska

P2w2(1975)

堆積物などの細かい吟味なしに区別がおこなわれているようであった。

② 北海道北見の武利岳南方の地形図読図、空中写真判読、現地調査によって、氷河地形分布図(第2図)を作成した。

いくつかのモレーンの存在や堆積物の観察による氷河地形の認定、および滑落崖や地盛りブロックの存在から、本地域の氷河地形発達史を考えた。本地域では氷食以前に地盛り地形が存在していたことが考えられ、そのことが氷河の延長に好都合であったと思われる。氷河の最拡大期には氷河は860m付近(第2図中Ⅰ)まで達していたと推定され、日高ホロシリなどと比較して、かなり低い所にまで分布していたことにはなるようである。



第2図 氷河地形分布図

1. 氷食壁 2. 側堆石・端堆石 3. 産堆石 4. 羊背岩 5. ウォーレトレーン
6. 氷河最拡大範囲(推定) 7. 滑落崖(地盛り) 8. 地盛りブロック

去る 9月3日 朝、本会名誉会員 五百沢智也氏の奥様が、
約2年にわたる闘病生活もむなしく、悪性リンパ腫のため
亡くなりました。慎んで御冥福をお祈りいたしたいと思
います。

なお、本会からは、弔電を打っておきました。

10月の例会のお知らせ

日時 10月15日(土) 14:00-17:00

場所 東大 理学部 2号館

発表者

① 岩田 修二(都立大): 天山山脈の氷河地形と周氷河地形

② 安田 初雄・矢内 誠也(福島地理学会, 西域巡検訪中団):

東天山付近の寒冷地形瞥見

12月の例会のお知らせ

日時 12月17日(土) 14:00-17:30

場所 東京大学

発表者

① 14:00-14:30 小崎 尚(明大)・岡沢 修一(千葉大):

後立山連峰, 朝日岳の完新世パリスモレーン

② 14:45-15:30 平川 一臣(山梨大): 化石間氷河現象による

北海道東部の古環境復元: 連続的永久凍

土帯か 不連続的永久凍土帯か?

③ 15:45-16:30 小野 有五(筑波大): モンスーン・アジアにおける

現在と最終氷期の雪線高度の推定

* 16:45-17:30 スライド大会

18:00- 忘年会

12月の例会は盛沢山のプログラムになりました。定刻にはじめたいと思いますので遅れないようにおいで下さい。

スライド大会では、今年のベスト・スライドを計せていただきたいと思います(1人10枚以内。ただし自信のある方はオーバーしても結構です。ふるって御参加下さい)。